５　「」 ─近世の和歌注釈書

19年度　立教大学

★　左の文章を読んで後の設問に答えよ。

　昔上人、おはしけるが、常には、「あなもの騒がしや」とＡのたまひければ、①あまたありける弟子たちも、慎みてぞ侍りける。Ｘかくありて、ある時、かきつやうに失せ給ひ⒜にけり。心の及ぶほど尋ねけれども、⑴さらにえ会ふこともなくて、②月ごろ⒝になりぬ。⑵さてしもあるべきならねば、みな思ひ思ひに散りにけり。

　かかるほどに、ある弟子、なすべきことありて、にでて侍りければ、⑶あ引き回したる中に、人ある③して、前にことやうなるものさし出だして、食ひ物の受け集めて置きたるありけり。「いかすぢの人ならむ」と、さすが⑷ゆかしくて、さし寄りて見たれば、行方なくなしてしわが師⒞にておはしける。

　「あな⑸あさまし。『もの騒がしき』とのたまはせし上に、かきくらしＢ給ひてし後は、⑹ふつに世の中にまじらひていまそかるらむとは思はざりつるを」と言ひければ、「もとののもの騒がしかりしが、Ｙこのほどはいみじくのどか⒟にて、思ひしよりも心も澄みまさりてなむ侍るなる。そこたちを育みＣ聞こえむとて、とかく思ひめぐらしし心の内のもの騒がしさ、ただおしはかり給ふべし。この市の中は、かやうにてあやしの物さし出だして待ち侍れば、食ひ物おのづから出で来て、さらにともしきことなし。心散るかたなくて、一筋にいみじく侍り。また、頭に雪をいただきて、をるたぐひあり。また、目の前に偽りを構へて、⑺くやしかるべきの世を忘れたる人あり。これらを見るに、悲しみの涙かきつくすべきかたなし。よりあり。心静かなり。⑻いみじかりける所なり」とぞ、侍りける。弟子も涙に沈み、聞く人ももよよと泣きけるとなむ。まことにあまたの人を育まむとたしなみＤ給ひけむ、「⑼さこそは」と思ひやられＥ侍り。

（注）　１　空也――平安時代の僧。浄土教の先駆者。

２　山――比叡山延暦寺。

３　薦――むしろ。

４　世の中を走る――世俗のことにあくせくする。

５　観念――仏や浄土を思いながら修行すること。

６　さくりもよよと――しゃくりあげて。

問１　本文中から、年老いているさまをたとえた表現を探し出し、初めの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

　　［　　　　　　　　　　］

問２　―線部⑴の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　まったく　　２　繰り返し　　３　たまたま

　　４　いっそう　　５　容易に

問３　―線部⑵の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　空也上人を探し続けてもいられないので

　　２　空也上人に頼ってばかりではよくないので

　　３　空也上人が戻って来るとは期待できないので

　　４　空也上人は生きていないのかもしれないので

　　５　空也上人とどこかで会わないとも限らないので

問４　―線部⑶の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　不思議な　　　２　みすぼらしい　　３　ありふれた

　　４　見慣れない　　５　きれいな

問５　―線部⑷の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　変に思って　　２　うれしくて　　３　尊く感じて

　　４　同情して　　　５　心ひかれて

問６　―線部⑸の現代語訳を八字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

　　［　　　　　　　　　　　　　　　］

問７　―線部⑹について。弟子はなぜこのように言ったのか。その理由の説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　空也上人が騒がしいことをいつも嫌っていたから。

　　２　空也上人がはなはだ貧しい暮らしをしていたから。

　　３　空也上人が静かに仏道修行に打ち込んでいたから。

　　４　空也上人が弟子に人々との交際を禁じていたから。

　　５　空也上人がもっと遠くに行ったと思っていたから。

問８　―線部⑺の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　後悔されるに違いない　　２　恨まれるに違いない

　　３　軽蔑されるに違いない　　４　絶望されるに違いない

　　５　妬まれるに違いない

◎問９　―線部⑻とはどういう場所か。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　から遠く離れた静かな場所。

　　２　修行するのにとても適した場所。

　　３　欲望にわれる人のいない場所。

　　４　悲しみを感じないで暮らせる場所。

　　５　多くの人を救うことのできる場所。

問10　―線部⑼の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

　　１　かなり愚かな行為だったかもしれない

　　２　とても感動し喜びに浸ったのである

　　３　ひどく反省して悔い改めたに違いない

　　４　本当にりっぱなふるまいであった

　　５　たいそう心をわずらわされただろう

問11　=線部⒜～⒟の文法的説明として最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

　　１　動詞の活用語尾　　２　形容動詞の活用語尾　　３　副詞の一部

　　４　完了の助動詞　　　５　断定の助動詞　　　　　６　格助詞

　　７　接続助詞

　　⒜＝〔　　　〕　　⒝＝〔　　　〕　　⒞＝〔　　　〕　　⒟＝〔　　　〕

【確認問題】

１　波線部①～③の本文中の意味として適当なものを、それぞれ次から選べ。

　①　あまた

　　ア　いつも　　イ　たくさん　ウ　少し

　②　月ごろ

　　ア　数か月　　イ　年末　　ウ　月末

　③　気色

　　ア　景色　　イ　物音　　ウ　様子

２　二重傍線部Ｘ・Ｙの指す内容として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。

　Ｘ　かく

ア　弟子たちは気をつけていたが、空也上人はうるさいと注意していたこと。

イ　空也上人が一心不乱に修行するので、弟子たちも静かにしていたこと。

ウ　弟子たちがうるさくしており、空也上人がいつも注意していたこと。

エ　弟子たちが静かに修行できるように、空也上人が気を配っていたこと。

　Ｙ　このほど

　　ア　人が通らない時間

　　イ　人がたくさんいる時間

　　ウ　人の少ない山里

　　エ　人通りの多い、町の市

【補充問題】

３　上人はどういう人が生き方の悪いお手本だと述べているか。本文中から二か所抜き出し、それぞれ最初と最後の五字を記せ。

　▽［　　　　　　　　　　］〜［　　　　　　　　　　］

　▽［　　　　　　　　　　］〜［　　　　　　　　　　］

４　□Ａ～Ｅの敬語の種類と、敬意の方向を、次のⅠ・Ⅱの語群からそれぞれ選べ。

　Ⅰ　敬語の種類

　　Ｓ　尊敬　　Ｋ　謙譲　　Ｔ　丁寧

　Ⅱ　敬意の方向

　　ア　作者から空也上人へ

　　イ　作者から弟子へ

　　ウ　作者から読者へ

　　エ　弟子から空也上人へ

　　オ　空也上人から弟子へ

　　　　　Ⅰ　　　　Ⅱ

　Ａ＝［　　　］［　　　］

　Ｂ＝［　　　］［　　　］

　Ｃ＝［　　　］［　　　］

　Ｄ＝［　　　］［　　　］

　Ｅ＝［　　　］［　　　］

【解答】

問１　頭に雪

問２　１

問３　１

問４　２

問５　５

問６　あきれたことだ（驚き呆れたことだ）

問７　１

問８　１

問９　２

問10　５

問11　ａ＝４　ｂ＝６　ｃ＝５　ｄ＝２

【確認問題】

１　①＝イ　②＝ア　③＝ウ

２　Ｘ＝ア　Ｙ＝エ

【補充問題】

３　頭に雪をい～走るたぐひ

　　目の前に偽～忘れたる人

４　Ａ　Ⅰ＝Ｓ　Ⅱ＝ア

　　Ｂ　Ⅰ＝Ｓ　Ⅱ＝エ

　　Ｃ　Ⅰ＝Ｋ　Ⅱ＝オ

　　Ｄ　Ⅰ＝Ｓ　Ⅱ＝ア

　　Ｅ　Ⅰ＝Ｔ　Ⅱ＝ウ

【現代語訳】

　昔、空也上人が、比叡山延暦寺にいらっしゃったが、普段から、「ああ騒がしいことよ」とおっしゃっていたので、たくさんいた弟子たちも、（音をたてないように）気をつけていました。何度もこのような（騒がしいとおっしゃる）ことがあって、あるとき、さっと消えるようにいらっしゃらなくなってしまった。考えられる限りの場所を捜し回ったけれど、まったく会うこともできず、数か月が経った。そのまま（空也上人を）探し続けてもいられないので、みんな思い思い（の場所）に散り散りになってしまった。

　こうしているうちに、ある弟子が、しなくてはいけないことがあって、市場に出かけましたところ、みすぼらしいむしろを張りめぐらしてある中に、人がいる様子で、前に普通とは違う（＝欠けたりみすぼらしかったりする）入れ物を差し出して、食べ物の残りを集めて置いてあることがあった（のだった）。「どういう素性の人なのだろう」と、ほかとは違ってやはり心ひかれて、近寄って見たところ、行方不明と考えざるを得なかったわが師でいらっしゃった。

　「あああきれたことだ。『騒がしい』とおっしゃっていた上に、姿を消してしまわれた後は、全く世俗の中に交じって暮らしていらっしゃるだろうなどとは思っていなかったのに」と（弟子が）言ったところ、（空也上人が）「前の住みかは騒がしかったが、この（市場の）あたりは非常にのどかで、思っていたよりも心もたいそう澄んできているのです。あなたたちを育て申し上げようと思って、あれこれ考えをめぐらした心の中の騒がしさを、ただ推しはかりなさってください。この市場の中は、このように粗末な（入れ）物を差し出して待っておりますと、食べ物が自然と出てきて、まったく乏しいということがない。心の乱れようもなく、一途に（修行して）たいへん思いのとおりに（暮らして）おります。また、髪の毛が白くなっても、世俗のことにあくせくする例もある。また、目の前に噓をでっちあげて、（生まれ変わったら）後悔されるに違いない後世（になってしまうこと）を忘れてしまった人がいる。これら（の例）を見ると、悲しみの涙をぬぐい尽くせるすべもない。（ここには）仏や浄土を思いながら修行することへの手がかりがある。心静かだ。修行するのにとても適した場所なのだ」と（いうお言葉が）、ありました。弟子も涙に暮れ、聞く人もしゃくりあげておいおい泣いたと（いうことだ）。本当に多くの人を育てようと苦しみなさったのだろう、「そう（であるだろう）（＝たいそう心をわずらわされただろう）」と想像されます。